



2019年2月8日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

AIを活用したドライブレコーダー映像の分析による 責任割合自動算定システムの共同開発

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」）は、ジェネクス株式会社（社長：笠原 一、以下「ジェネクス」）とドライブレコーダーによって撮影・取得された衝突時の映像とGPS位置情報から事故状況を正確に分析することにより、自動車交通事故における責任割合を自動算定するシステムを共同開発することに合意しました。

本システムの開発により、自動車交通事故における責任割合の判定プロセスを明確にするとともに、迅速な事故解決を目指します。

1. 背景・目的

ドライブレコーダーの普及に伴い、事故の責任割合を判断するうえで、交通事故発生時の映像を活用するケースが増えています。一方で、ドライブレコーダーで撮影された映像から衝突した車両の速度や相対的な距離など、事故原因の究明と事故の責任割合の判断につながる情報を正確に分析するには、専門の知識と技術が必要で、多くの時間を要しています。

そこで、損保ジャパン日本興亜は、ジェネクスと共同で、従来お客さまにご負担をおかけしていた事故状況の確認、事故原因の調査といった手順を、デジタル技術によって効率化し、迅速な事故解決を可能にするため、ドライブレコーダーの映像を自動的に分析するシステムの開発に着手しました。

2. ドライブレコーダー映像分析の概要

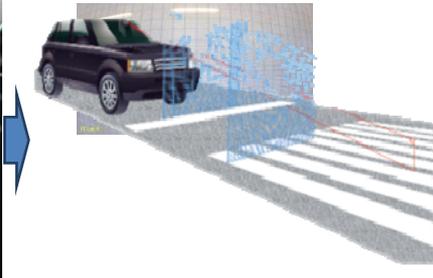
ドライブレコーダーは広角レンズで映像を撮影するため、映像にゆがみが生じていますが、ジェネクスは、そのような映像からでも正確な速度、相対的な距離、位置情報を分析できる特許技術を保有しています。

ジェネクスが保有する分析技術と、映像における車両挙動・道路形態を認識し判定する人工知能（AI）技術を組み合わせることで、衝突時の映像から事故に至る双方の車両の動きや道路状況など、多岐に渡る情報を正確に読み取ることが可能になります。読み取った情報と損保ジャパン日本興亜が蓄積してきた事故に関する知見などをもとに、確度の高い責任割合の判定を自動かつ迅速に行います。

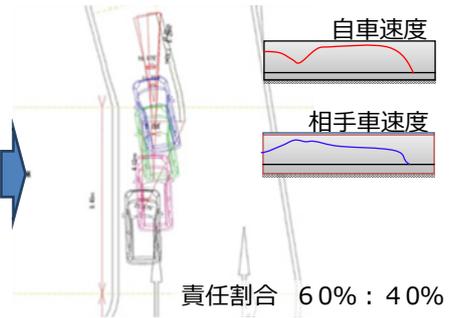
【映像分析のイメージ】



ドライブレコーダーで映像取得



AIによる映像の分析



衝突状況再現（例）

3. 今後について

損保ジャパン日本興亜は、蓄積した事故データと分析結果を事故の予防や被害の軽減に活用し、さらなるお客さまサービスの向上と安心・安全な社会の実現に貢献していきます。

以上